

\$name

=====

THE VEDANTA KYOKAI
News, Updates and Miscellany from the Vedanta Society of Japan
August, September 2003
Volume 1 Number 5

=====

* かく語りき

「私たちの本質的な特質は愛です。愛によってこそ、シュリー・ラーマクリシュナの
霊性の家族は成長し、発展してきたのです」・・・ホーリー・マザー・シュリー・サ
ラダ・デヴィ

「真理には多くの相がある。無限の真理には無限の表現法がある。聖者は様々の方法
で語るが、唯一なる真理を表現している」・・・シュリー・クリシュナ

* 哀悼：初代日本センター会長

8月3日午後11時10分、インド、ヴァラナッシーのホーム・オブ・サービスにて
スワミ・シッダルターナンダジが75歳で永眠されましたことを、深い悲しみと共
にお知らせ致します。1958年に発足した日本ヴェーダーンタ協会支部は、198
4年ラーマクリシュナ・マト及びミッションに正式加入しました。初代の常住僧侶と
なられたスワミは、健康を害されるまでの9年間を逗子のアシュラムに滞在されま
した。スワミには多くの日本人賞賛者がいました。
逗子センターでは9月7日(日)、例会の際に追悼会を開きました。

当日の様子のURL

http://www.vedanta.jp/multimedia/photo/swami_s/index.html

* 聖誕祭のお知らせ

8月12日 スワミ・ニランジャーナンダ
8月19日 シュリー・クリシュナ
8月26日 スワミ・アドヴァイターナンダ
9月20日 スワミ・アペーダーナンダ
9月26日 スワミ・アカンダーナンダ

* ソウルの IIFWP サミットでのスワミのスピーチ

2003年8月11～16日、IIFWP(世界平和超宗教超国家連合)は韓国のソウル
にて世界指導者のサミットを開催しました。『転機に立つ世界：平和と管理の世界的
視野』のテーマで世界150カ国から360人以上の指導者(宗教指導者、政府閣僚、
政治指導者、官僚、NGOや報道関係の代表者など)が集いました。様々な会議が開か
れ、中近東や朝鮮半島、アメリカと国連などの世界の危機的な問題について話し合わ
れました。

スワミ・メダサーナンダは、この内ふたつの会議に参加されました。ひとつはカソ
リック、プロテスタント、ギリシャ正教、仏教、イスラム教、ユダヤ教、儒教、ヒン
ドゥー教、そしてシーク教の代表者たちと共に出席された『宗教間会議におけるイニ
シャティブ』を話し合う非公開会議でした。もうひとつは『平和と管理に関する特別
委員会：南アジアを焦点に』と題された公開会議でした。

非公開会議は、国連が常任の超宗教会議を設けるに当たっての草案作成という大仕事
でした。会議の報告書の抜粋には次のようになります。『委員会のメンバーはその展
望と関わり方において、多くの点で互いに距離のあるところから始まった。・・・歯
止めの利かない討論はとなった。・・・それでもメンバーが深い意見の相違を乗り越
えることができたのは、全員が課題を高く評価して取り組んだ成果だろう。・・・そ
の結果わずか数時間で複雑難解な文書の完全合意にこぎ着けたのだった。・・・世界
はまさにそれぞれの伝統宗教の集合的な智恵を必要としているのだ。・・・』

公開会議でのスワミは、『宗教間の調和における宗教指導者の役割』について短い
お話をされました。この内容は、IIFWP日本支部が発行する月刊誌9月号に日本語訳
が掲載されました。以下はその抜粋となっています。

「今から百年以上も前にシカゴで開催された最初の国際宗教会議で、宗教観の調和を説かれたのは、スワーム・ヴィヴェーカーナンダでした。・・・」
「シュリー・ラーマクリシュナは言われました。『我々の聖典には多くの本質的なこと、そして非本質的なものがある。それはちょうど砂糖と砂の粒が混ぜ合わさっているようなものだ。だから本質に目を向け、そうじゃないものは無視するよう努めよう』
「自分の信仰を守りつつ、他の宗教からも学び、異なった信仰の考え方を取り入れることは可能なことです。・・・」
「・・・ですから、ヒンドゥーの僧が教会やモスクに招待されてヒンドゥー哲学の講話をしたり、互いに引き合って話ができるような日が来ることを願っています。こうした機会には、儀式ではなく、哲学や神学について語り合い、そしてまた意見を異にする内容よりも同意できる内容を強調すべきでしょう。・・・」

IFWP サミット主催者の目標達成が実現化できるか否かについては、まだ報告はできません。しかし参加者が集い、共通の福利の実現をめざして意見交換する機会を得たことにおいて、サミットはその目標を達成したと言えます。

* 7月のニュースから

・ 7月5日（新橋）
新橋の東京例会では、『シュリー・ラーマクリシュナの福音』の最後の講話がありました。約1年間続いたこのシリーズに代わって『バガヴァッド・ギーター』の講話が始まります。

・ 7月12日（沖縄）
ヨーガ講師の羽成氏と沖縄を訪れたスワームは、少人数の方々に日本語でカルマ・ヨーガについてお話されました。滞在中この地方のヒンドゥー寺院を尋ねたマハラジは、ヴェーダーンタの教えとラーマクリシュナやヴィヴェーカーナンダに興味を示す多数のインド人と若干名の日本人に会われました。近く寺院でマハラジの講話が聞けることを皆さん期待していました。

・ 7月20日（逗子例会）
『神の特別な現れ』の演題での講話がありました。今回導入された瞑想ガイドは、今後も例会に組み入れていく予定です。マハラジからカルマ・ヨーガに関しての短いお話がありました。

・ 7月26日（インド大使館）
東京インド大使館での『パタンジャリのヨーガ・スートラによる瞑想』の講話が終了しました。

* 御嶽山：夏のリトリート

ヴェーダーンタ協会は、8月22日（金）の夕方から25日（月）の昼過ぎにかけて、恒例の御嶽山リトリートを開催しました。アンケートの回答欄からは、参加者された信者とその家族の計約40名の方々が、霊性向上の機会を堪能されたことが伺えました。

民宿山中荘でのリトリートは、今年で3年目になりますが、スワームも信者の方々も宿主とはすっかりお馴染みになりました。都心の北西に位置する御嶽山は電車を使っただけの交通の便も良く、都内に見つけた秘境に皆さん驚いた様子でした。

金曜夜7時の夕拝、輪読、瞑想に始まり、夕食後は早く到着された方向けの簡単なオリエンテーションがありました。消灯は10時で、瞑想、朗唱、パジャン、輪読に始まる早朝5時20分からの日課に備えました。7時から朝食が始まる8時までの時間は、ヨーガ・クラスまたは各自での読書に当てられました。朝食後にはスワームからの講話があり、23日は『唯一なるものとその多くの現れ』、24日は『平安のあり方』が演題でした。その後自由参加の瞑想時間、続いて正午には昼食となりました。2時30分から4時までは質疑応答と瞑想ガイドの時間で、この後お茶となりました。

たっぷり取られた自由時間を利用して、観光名所となっている御嶽神社など近辺での散策を楽しみました。6時から夜のプログラムと祈りが始まりました。

夏の御嶽山リトリートは早くもヴェーダーンタ協会の恒例行事となりました。まだ参加されていない方、来年の参加をお待ちしています。

* スワーム、第1回ヨーガ・セラピー会議に出席

8月9日大阪での日本ヨーガ・セラピー協会の招きで、スワミ・メダサーナンダは『ホリスティック・ヘルスへの霊的なアプローチ』に関してほとんど日本語でお話されました。会議のテーマは代替療法、セラピー、心理学療法でしたが、スワミのヴェーダーンタ哲学に裏付けられた霊性の開発を含めたホリスティックな取り組みは好評を博しました。

*お知らせ

- ・スワミ・メダサーナンダは、9月9日から10月18日までインド、シンガポール、マレーシアを回る旅に出られます。10月の講話、例会はありません。
- ・10月24日(夜7時～9時30分)逗子センターにてカーリー・プージャが催されます。ご参加下さい。

*今月考えてみたいこと

誰もが思考力を生み出すに十分なエネルギーを備えています。問題はそのエネルギーをどのように方向付けるか、そしてひとりひとりが目指す究極の目的とは何なのか、ということです。行為に向かうときの私たちの心理的態度は失敗や成功に影響するので、正しく思考できるように自己訓練することは絶対必要です。人生を左右する決定要因となる思考力の秘法を身に付けると、世間での生活の内にも最高の理想の体現できるようになります。ですから集中による思考のコントロールと、思考に対する感受性が真の進歩を遂げるためには最重要となります。実践を試みるなら、その原理は簡単に応用し易いものです。正しく思考することの技術は、常に変化し続けて気を逸らせてくる様々な思いから、ひとつの対象を解放してやることです。そしてその思考のみに意識を向け、最終的にはより高次の『自己』とひとつになるよう導いてくれる悟りへの入り口を開くのです。規則的に思考トレーニングを繰り返すことは、こうした成長に役立ちます。そしてあらゆる不可視の力のなかで最も力強い高次の思考波動を呼び起こしてくれるのです。

発行

Issued by:
日本ヴェーダーンタ協会
Vedanta Society of Japan (Nippon Vedanta Kyokai)
249-0001 神奈川県逗子市久木4-18-1
4-18-1 Hisagi, Zushi-shi, Kanagawa-ken 249-0001 JAPAN
Phone: 046-873-0428 Fax: 046-873-0592
website: <http://www.vedanta.jp> email: info@vedanta.jp
[KENB005-J]

このニュースレターが必要ない方はそのまま、返信してください。アドレスから削除します。
